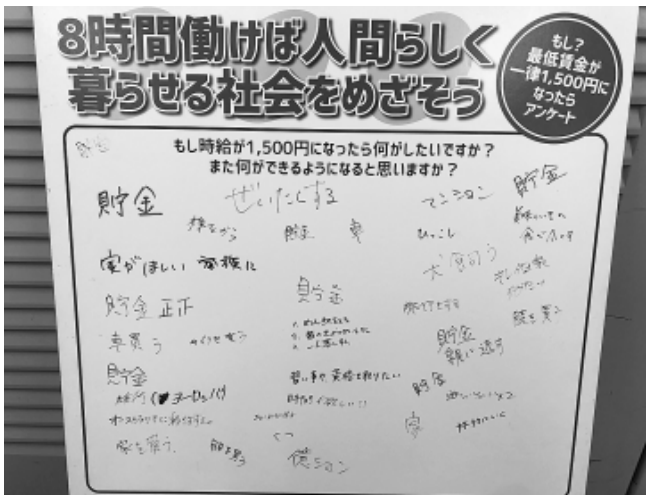
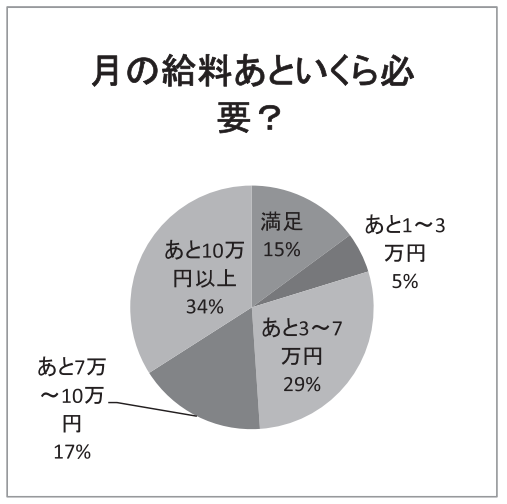
最低賃金運動が大きく広がる

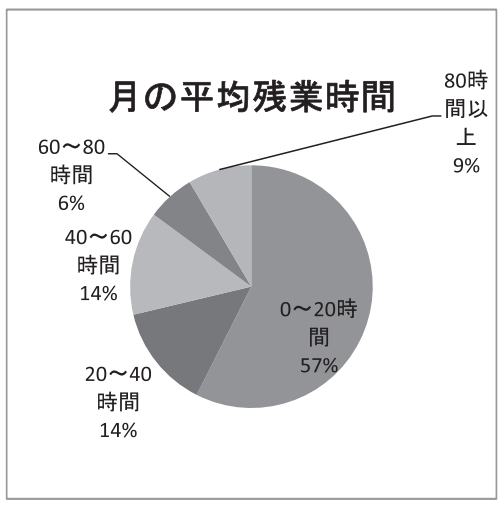
時給1500円以上で青年が暮らせる社会に

最低賃金への関心と期待がかつてなく大きく高まっています。青年が自立して普通に暮らすためには、時給で1500円以上、月収で23万円程度がなければならないことへの理解と共感が広がっています。東京地評と東京春闘共闘は20春闘で、中小業者支援策とともに運動化していきます。



時給1500円になったら「貯金したい」が最多





全国一律1500円は、各党の重要な政策の柱にもなってきています。野党は参議院選挙において市民連合と合意した共通政策と位置づけ、自民党の一部でも「全国一元化」議員連盟を結成して調査と議論を重ねています。

全国20近い地域で最低生計費調査を行ってきましたが、大都市部も地方も普通の生活を送るには時給換算で1500円前後が必要なことが明らかになってきました。東京でも今年の夏に調査を実施して3500人以上から調査票を集約しました。間もなく結果概要が出され、マスコミにも発表します。来年の春闘では調査結果を活用して、最低賃金の大幅な引き上げはもちろん、賃金全体の底上げ、ベースアップにも役立てていきます。

11月に新宿駅東口アルタ前で東京地評青年協が行った「東京ジャック」において街行く青年から寄せられた声には、厳しい生活実態と賃上げへの期待がはっきりと見て取れました。月給で後いくら必要かの問いには51%が7万円以上（10万円以上は34%）にのぼり、時給に置き換えれば1000～1500円になりますから、現行最賃1013円では足りずに、1500円程度が生活実感でも必要だということがわかります。さらに青年は残業がつき80時間以上が約1割、10時間以上で3割近くにもなります。残業代を入れても暮らしは厳しいことが浮きぼりです。

「最賃1500円になったら何がほしい、何がしたい」の書き込みには、旅行や海外移住もありましたが、貯金するが圧倒的に多く、服・靴を買うや引越し、また「時間が欲しい」「美味しいもの食べる」など、切実な声がたくさん寄せられていました。

東京は家賃が高い！

生活実態出し合い激論

東京での最低生計費調査のは調査を監修する中澤秀一静岡県立大准教授。

最低生計費調査は一定の生活に必要な持ち物を確定し積み上げて生計費を算出する方法をとります。憲法25条が保障する「あるべき普通の暮らし」を送るにはいくら必要かを明らかにするのが目的です。

年収300万円の25歳の単身者が対象モデル。参加者は自分の生活を振り返りながら意見を出し合いました。電気アイロンは、クリーニング代を節約するために営業職には必需品」アイロンかける時間があるなら眠りたい」と、具体的に話して必要かどうか決めます。

交通の利便さを考え、23区内で女性が安全に暮らすため家賃7万円のアパートを想定。遠方への帰省は交通費が高くてめったにできない、などの東京ならではの支出費目も特徴でした。デート代・プレゼントはいくらまで出せるか、忘年会は平均3千円など、会議は2時間半にも及びました。

参加者は「皆で考えられたのが良かった。もっと賃金の底上げが必要だと感じた」、「何を大切にしてお金使うかは人によってずいぶん違うことがわかって面白かった」と感想を寄せていました。テレビ・新聞の取材もありました。

生活実態を出し合い議論

中小企業シンポジウム

地域経済の担い手をどう作るか

パネリストの3人

11月23日にけんせつプラザにて第6回中小企業シンポジウムが開かれました。全体の参加は90人、東京地評も主催者団体として多くの加盟組織からの参加がありました。

全労連の小田川議長が開会にあたり挨拶、その後のシンポジウムは、永山元日本大学教授がコーディネーターとなり、「持続可能な社会」「大都市以外で沈下する地域経済」「経済の活性化を図るにはどうすれば可能か?」などについて基調的報告を行いました。

パネリストの問題提起は、紀ノ川農業協同組合の宇田川組合長からは「地域づくり・担い手づくりの実践」、中小企業家同友会から内藤鋼業取締役は「エネルギーシフト・ペレットと内子バイオマス発電」について、全建総連の奈良書記次長からは「技能評価と担い手づくり」について話されました。

3人の報告を受けて、5団体（東京土建・全労連・労働総研・自治労連・全国一般）から発言があり、最後にコーディネーターの永山先生がまとめました。

このシンポジウムは、労働運動と中小業者が地域経済活性化について、共通の課題で交流を深めています。

ショートカット

パ非連総会
12月4日、東京地評5階会議室で、「第16回東京パート・非正規労働者連絡会第16回総会」を開催し、12単産1地域より21人が参加しました。1年間の取り組みを総括し、学習会の開催やレク、業界団体要請、組織交流会、安心して働きたい東京のつどいの開催等を含む方針を決定。各組織の取り組みを交流し、役員体制を確立しました。

都議会開会日行動
都議会第4回定例会開会日の12月3日、都民連、東京地評、東京社保協主催で都庁前において19人の参加で開催しました。東京地評荻原淳議長の主催者挨拶と日本共産党の原田あきら都議の連帯挨拶に続き、2020東京五輪問題、横田基地・オスプレイ配備問題、公立病院統廃合計画について、3団体が決意表明をしました。

【加盟組合の定期大会】

東京私教連第82回大会
10月20日、北多摩西教育会館で開催。新役員は3月に選出されています。

杉並区労連第28回大会
10月24日、杉並産業商工会館で開催。議長に高田勝善さん（電機情報ユニオン）、事務局長に峰一史さん（杉並一般）。

港区労連第29回大会
10月26日、港区勤労福祉会館で開催。議長に清水弘之さん（東京土建）、事務局長に高橋孝さん（専従）。

北区労連第75回大会
10月26日、東京土建北支部会館で開催。議長に渡辺幸彦さん（東京民医労）、事務局長に松永光明さん（北退教）。

千代田区労協第64回大会
10月26日、千代田区神田公園区民館で開催。議長に小林秀治さん（千代田区職労）、事務局長に水久保文明さん（専従）。

金融労連関東地協第3回大会
10月26日、さわやか信金従業員組合事務所で開催。議長に小林徹さん、事務局長に上田直哉さん。

八王子労連第30回大会
10月27日、八王子労政会館で開催。議長に佐藤義見さん（東京土建）、事務局長に中村映子さん（福祉保育労）。

文京区労協第61回大会
10月27日、文京区民センターで開催。議長に大谷昇さん（文京区職労）、事務局長に岩永有礼さん（専従）。

板橋区労連第68回大会
10月27日、板橋グリーンホールで開催。議長に村木正弘さん（板橋区職労）、事務局長に船木義弘さん（東京民医労）。